

■本書の使い方

使いやすいように、ジェスチャーは身体部位別に分類して提示した。たとえば、指で鼻を叩く動作は「Nose Tap (鼻叩き)」と名称をつけNの項に、指を交差させて上に上げるジェスチャーは「Fingers Cross (指十字)」としてFの項に挙げた。はっきりさせるために、よく知られている「Wink (ウィンク)」もその身体部位で分類し、Eye WinkとしてEの項に挙げた。したがって、ジェスチャーを探すには、関わりのある身体部位をアルファベット順に見ていけばよいのである。

それぞれのジェスチャーにはイラストを添え、次の四つの見出しをつけた。

- ①**意味** 基本的なメッセージを挙げた。
- ②**動作** イラストを補足するために、動きを描写した。
- ③**背景** 起源、使われる状況、歴史など、そのジェスチャーに関して分かっている知見をまとめた。
- ④**地域** そのジェスチャーがどこで観察されたかを記述した。分布状況について詳しく分かっているものもあるが、多くの場合には、ある特定の国で使われたという記録があるだけである。たとえば、「オランダ」と書かれていても、その他の地域で見られないというわけではない。将来的には、魅力ある人間のジェスチャー言語についての知見がさらに深められ、これらの記録がより詳細なものになっていくことを期待したい。

■ジェンダーに関する注

本書のほとんどのイラストが男性であることから、これは不当な性差別だと考える読者がおられるかもしれないが、そうではない。この本が性差別主義者ではなく、ジェスチャー自体がそのような傾向をもっているのである。つまり、どういうわけか、ジェスチャーで合図することは主に男性の習慣なのである。国によってはあまりにも男性中心のジェスチャーばかりで、我々の側の女性研究者は、地元の人がその話を始める前に、場をはずすように言われたほどである。